

所在地	鹿児島県鹿児島市
自動車事業部拠点数	本社・営業所・出張所：7
雇用障害者	肢体不自由者、聴覚障害者、内部障害者

入社後に受障した者や新規雇用の障害者が就業

南国交通株式会社

case

仕事に対する熱意や対応力のあることが大切 新規雇用にあたっては、トライアル雇用を利用

必要な配慮を行いながら、 自然に受け入れる

市民の重要な足であるバス。南国交通株式会社は、市勢の発展に合わせて近郊路線の充実を図っています。そのような中、現在8名の障害者が勤務しています。

「特別に障害者という意識はしていない」と人事部の岩切課長代理は言います。

「もちろん必要な配慮はしています。例えば、人工透析が必要となった内部障害者には、負担を考えて、配置転換や勤務時間の調整などを行っています。ですが、管理的存在である内部障害者の場合は、透析日になると早い時間に終業するため、その分の仕事をカバーしようと、自主的に他の日より早めに出社しています。早朝勤務の社員のサポートをしてくれており、大変助かっています」

「障害のある方でも、仕事への熱意があり、業務に対応できる方ならば、採用を前向きに考えます」と言う岩切さん。「地元で愛される企業」という理念のもと、今後も障害者雇用の拡大を考えていきたいとの思いがあるようです。

入社後に受障した者を、 運転者として継続雇用

入社して35年になる木下さんは、4年前に心臓病を患い、内部障害者となりました。入社以来運転者として勤務していましたが、受障後も運転業務を行ううえで支障はなく、現在も運転者として勤務しています。勤務時間も勤務条件も受障前と変わりません。

「木下さんと顔なじみのお客様も多く、バスに乗務していない時も声をかけてくださったり、病気のことを知って心配してくださる方もいます。現在は特別な配慮は必要では



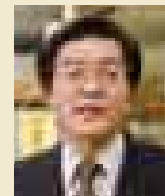
人事労務部
課長代理
岩切 俊一さん

ありませんが、木下さんには少しでも長く在籍してもらいたいと思っていますので、定年の延長や、体力面への負担が少ない事務職への配置転換も念頭においています」と言うのは、人事労務部長の盛山さん。「体力、動体視力、雨や夕暮れ時の視界不良への対応…このような運転者に必要とされる能力は、全ての運転者に対して、常に確認しています。木下さんについても同様に確認しながら、また本人と相談しつつ、継続雇用について考えていこうと思います。『お客様の安全』が第一ですから、これを基本とした社のシステム作りは今後も大きな課題です」

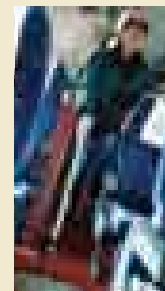
トライアル雇用を活用し、 業務職として新規に雇用

聴覚障害者の立石さんは、ハローワークの紹介によって、3ヵ月間のトライアル雇用を経て、平成16年8月に正式に採用されました。高速バスの車体の清掃を行っています。社内には運転者以外の業務が少ないため、運転者以外の業務で新規に障害者雇用を検討するのは難しいのではないかと考えがりましたが、トライアル雇用が前向きに考えるきっかけとなりました。

「聴覚障害者を紹介されるのは初めてでしたから、最初は戸惑いました。車庫での清掃業務ですから、大型のバスの往来が激しい中、危険を察知できるのか、どうやって安全を確保したらよいか、また、コミュニケーションはどのようにとったらいいのか、それが気がかりでした」と所長の生駒さん。「トライアル雇用の3ヵ月間の中で、実技試験を何度も行い、安全面には問題がないことが確認できました。また、大きめの声ではっきりと話すことで、コミュニケーションはスムーズにとれることもわかりました。トライアル雇用期間の中で、不安が解消されただけでなく、我々もそして立石さん本人にも大きな自信がついたように思います」現在、



鹿児島営業所
所長
生駒 博之さん



笑顔でバスの清掃

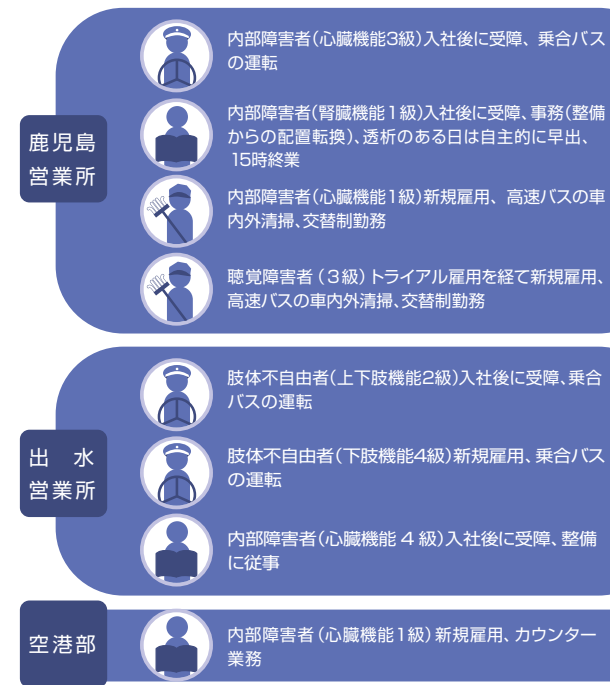


バスの窓を拭く立石さん

他の3名と一緒に4名で交替勤務を行っています。

立石さんに限らず、障害社員を特別扱いではなく、労働時間や福利厚生も他の社員と一緒にです。障害社員の熱心な仕事ぶりは、他の社員にも好影響を与えています。

雇用されている障害者の配属先と障害状況



なるほど! 支援制度 【トライアル雇用】

障害者に関する知識や雇用経験がないことから、障害者雇用をためらっている事業所に、障害者を試用雇用の形で受け入れてもらうことで、本格的な障害者雇用に取り組むきっかけづくりを進める事業。(20ページ参照)

POINT ポイント

雇用への取組みを聞きました。
思いやりのある配慮が重要です



人事労務部長
盛山 純正さん

障害者といっても人によってさまざまなので、ポイントは実技を見させていただくということですね。当社では、特別なシステムがあるわけでもありませんが、社内ですることができることを検討し、思いやりのある配慮をしながら障害者雇用をすすめています。将来的には、より多くの障害者の方に働く機会を提供できたらと考えております。運転者という職種に限定すると難しいものかもしれませんが、バスの清掃業務などであれば、まだまだ雇用は可能だと思います。

これまで助成金によって、特別に施設を改善することなどは行ってきませんでしたし、現時点ではその予定はありません。しかし、企業として社会的責任を果たしていくために、助成金や制度をうまく活用できたらと思っています。例えば、手話を使用する聴覚障害者を雇用する場合、手話の勉強会や手話のできる人材なども考えていきたいと思っています。

障害者とともに私たちも成長し、地元住民のみなさまから愛され続けるバス会社であるよう、これからも努力は惜しまず尽力いたします。

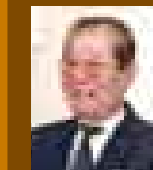


VOICE 職場でのインタビュー

以前と何もかわらないのですが、暴饮暴食はやめました

嬉しかったのは、体を患う前と復帰後で、給与面などの待遇や職種が同じであったこと。35年間も運転していますので、地元では顔なじみの方も多いです。休日は山へ行って野菜をつかったり、海で鮪を獲ったりしています。4年前、

心筋梗塞で倒れてからというもの暴饮暴食、そしてタバコも一切やめました。家族の協力もあり、今では規則正しい生活を心がけています。無理はできなくなったとはいえ、以前と何も変わりません。障害者手帳はもらいましたが、健常者と変わりはないんですよ。



鹿児島営業所
運転者
木下 優さん
(内部障害)

バスが大好きなので、仕事はとても楽しいです

小1の時、高熱が原因で耳が聞こえなくなりました。本当に悲しかったです。将来の夢は…本当はね、運転者、その夢は叶いませんが、バスが大好きなので、仕事はとても楽しいです。趣味は、80cmにもなるバスの模型作りです。写真

を撮りに行って、それをもとに内装まで同じに作るんです。一台作るのに6〜8ヵ月かかります。ホームページで公開しているので、是非見てください。仕事上のコミュニケーションは十分ですが、プライベートな話などももっとたくさん会社の人と話せたらいいなと思います。



鹿児島営業所
高速バス清掃員
立石 辰也さん
(聴覚障害)